

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	高次脳機能障害 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	一年次		学期及び曜時限	後期 月曜1限 他	教室名	406教室
担 当 教 員	野津 裕子	実務経験と その関連資格	野津:病院勤務時、回復期および生活期の失語・高次脳機能障害の患者様のリハビリテーション業務の実務経験がある。			
《授業科目における学習内容》						
高次脳機能障害の基礎的概念を学ぶ。高次脳機能障害について専門的な知識および評価・訓練技術を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験(80点)、小テスト(20点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書】「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学」 医学書院						
《授業外における学習方法》						
各回の講義後に復習を行うことで疑問点を明らかにする。その疑問点については調べ学習や講師への質問等により疑問のまま残さない努力をしてください。また、小テストを活用して基本的知識の修得に努めること。						
《履修に当たっての留意点》						
基本的知識の習得に加えて、言語聴覚士として必要な態度についても学ぶ。グループ活動では学びに貢献できるよう積極的に参加すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害の定義、原因疾患、疾患による症状が説明できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	総論① 高次脳機能障害とは(教科書 p2～)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	背景症状が説明できる。神経心理学的な考え方が説明できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	総論② 脳と高次機能(教科書 p9～)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚失認の定義、概要、統覚・統合・連合型の特徴を説明できる	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	視覚認知の障害①(教科書 p43～)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚失認の定義、概要、統覚・統合・連合型の特徴を説明できる	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	視覚認知の障害②(教科書 p43～)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	相貌・色彩失認について説明できる。地誌の見当識障害について説明できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。	
		各コマにおける授業予定	視覚認知の障害③(教科書 p43～)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	視空間障害の定義、症状、病巣について説明できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	視空間障害①(教科書 p67～)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	視空間障害の定義、症状、病巣について説明できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	視空間障害②(教科書 p67～)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	評価方法の概要、実施方法について説明できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	視空間障害③(教科書 p67～)、評価方法		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	評価方法の概要、実施方法について説明できる。	教科書 検査マニュアル	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	視空間障害④(教科書 p67～)、評価方法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚失認の定義、症状、病巣が説明できる。	教科書 検査マニュアル	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	聴覚認知の障害①(教科書 p87～)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚失認の定義、症状、病巣が説明できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	聴覚認知の障害②(教科書 p87～)、触覚失認(教科書 p101～)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	失認の評価方法が説明でき、実施できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	失認の評価①		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	失認の評価方法が説明でき、実施できる。	教科書 検査マニュアル	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	失認の評価②		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	失認の評価方法が説明でき、実施できる。	教科書 検査マニュアル	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	失認の評価③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1～14回の講義内容を振り返り疑問点を整理し理解できる。	教科書	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		